私は正直、このモンゴル研修に参加しなければ、モンゴル国を詳しく知ろうとすることはなかったと思います。まず、こんなにも伊豆の国市とモンゴルの関係が深いということも知りませんでした。

　私の中のモンゴルのイメージは、生活も少し不便で、景色もそんなに良いわけでもないというような感じでした。ですので、友達に「モンゴルに行くんだ！」と言ったときに「えー、モンゴルか…」という反応を友達がするのもわからなくはありませんでした。

　そんなモンゴルは、わたしにとって未知の世界であり、行く前はとてもワクワクしていました。

　家族と別れ、バスに乗り飛行機に乗り、もうすぐでモンゴルに着くという頃、ふと窓から外を見て衝撃を受けました。ウランバートルの街がライトアップですごくキラキラと輝いていたのです。びっくりしました。「本当にここがモンゴルなのか」と疑うほど、自分のイメージ像と全然重なりませんでした。その綺麗な景色は東京に負けないくらいの都会感がにじみ溢れていました。

でも、驚きはこれでは終わりません。朝を迎えて外に出てみると、そこは、すみきった気持ちのいい空気でいっぱいでした。日本のような湿気はなくたとえ暑くてもカラッとしているため、重い感じはありませんでした。

そして何よりも日本では見られないどこまでも広がる草原です。それを見ているだけで、心の中のモヤモヤしたものも洗い流されるような気分になりました。馬や羊、ヤギなどが生活のなかでそこらへんにたくさんいる、というのも日本では見られません。つまり、日本にはない美しい自然をこの目と耳と鼻で実際に触れる事ができたということです。

そこで一つ、日本に帰って来てからの生活の中で、母からこんな事を言われました。

「モンゴルから帰って来てから、よく景色を見るようになったね。」

私は、さらさらそんな気はありませんでしたが、無意識のうちに車窓からの景色をよく見たり、星空の話をするようになっていたみたいなのです。きっとそれは、モンゴルの景色と比べてみたり、モンゴルに行ったことでいつも自分が見ているあたりまえの景色を大切にするようになったからだと思います。

　そしてもう一つは、バスガイドさんや、インターナショナルチルドレンセンターで出会った同じくらいの子供たちと触れ合う中で一番感じた、モンゴル人の方々の優しさです。ある日、子供たちと遊ぶことになった時に、モンゴル語が分からない私たちはとても不安でした。困っていることに気づいてくれたのか、一人の男の子が近づいてきてくれました。そして、私たちに一生懸命動作でゲームのルールを教えようとしてくれたのです。普段見慣れない日本人に駆け寄り、積極的に声をかけにくる姿に、私は心を打たれました。(私も、隅に隠れていないで積極的にモンゴル人と触れ合おう！その経験をするためにモンゴルに来たんだ！！)と、男の子の行動が私の背中を押してくれました。いよいよ、子供たちともお別れの時間。スーツケースを運ぼうとすると、また男の子が手を怪我しているのにもかかわらず、「僕が持つよ」と、身振り手振りで伝えてくれました。「バイラルラ」と言うと、ニコッと笑って重い荷物を一生懸命に運んでくれました。四人で口をそろえて「モンゴルに永住したい。日本に帰りたくない。」と言ったのは、内モンゴルの方やモンゴル人の優しさを実際に体験したことがとても大きいと思います。

　他にも、たくさんモンゴルの良い所はありますが、逆にモンゴルに行ったことで日本の良さも見つけることが出来ました。それは、街が静かなことです。モンゴルでは車のクラクションの音があっちこっちに鳴り響き、とてもうるさかったのですが、日本ではあまりクラクションの音は聞かないので、安心して過ごすことが出来ています。そういう面でも日本は安全安心な国なんだなと感じました。

　これらの共通点は、実際に現地に行かないとわからないという事です。モンゴルの景色も確かに、現在はインターネットで調べれば

画像を見ることはできるけど、その場の匂いや空気は実際に行かなければわかりません。景色だってレンズ越しでみるのと、自分の目で見るのとではやはり、感じるものが違うと思います。モンゴル人の優しさも、実際にコミュニケーションしなければわかりません。

　未知の世界に飛び出すことは、いろんな不安をおしきるような勇気を持たなければいけません。ですが、それ以上に飛び出した後は得るものが多く、これからの自分の人生に刺激をあらえてくれるのだと思います。

　ですから、モンゴルにかかわらず、またこのように外国に行く機会があれば、積極的に関わっていきたいです。この素晴らしい経験をさせてくださった皆さんありがとうございました。伊豆の国市の子どもたちが一人でも多く広い世界に興味を持ち、モンゴルを好きになってもらえるように私もこの経験を伝えていきたいです。